

図3

【教師】 朝、登校した時や授業中、子どもの顔色や様子から健康状態を観察したり把握していますか。

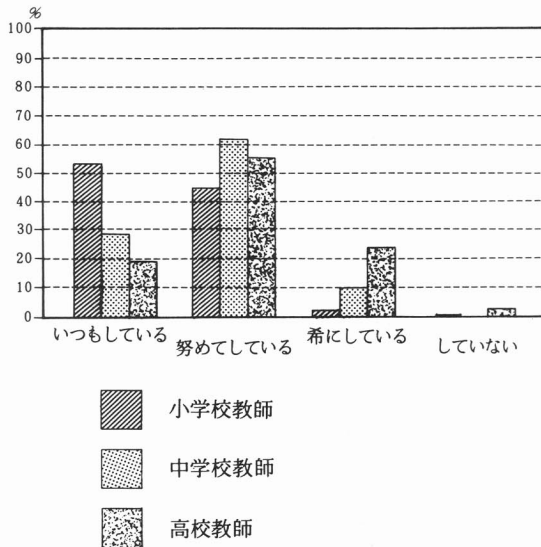


図5

【教師】 健康診断や面接などから、子どもの病気の既往症、体質、健康上の注意点などを把握していますか。

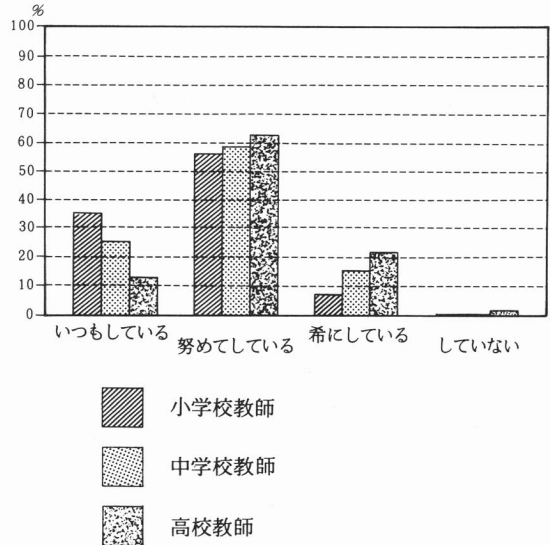


図4

【教師】 昼食時に、子どもの食欲、食事の量、偏食の有無などを観察していますか。

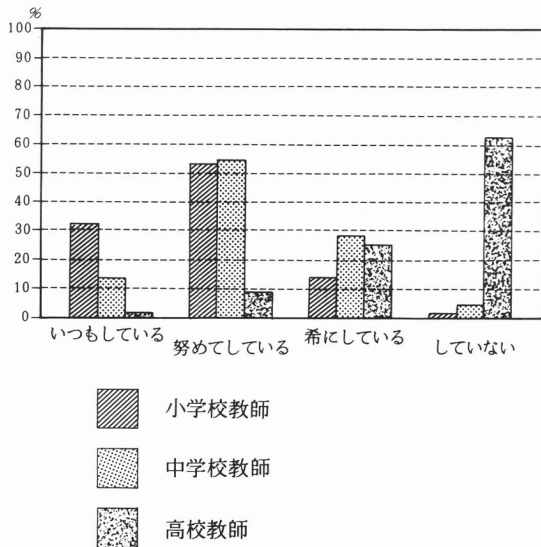


図3の健康状態の観察については、「いつもしている」「努めてしている」を合わせると、小・中学校では、90%以上を示しているが、高等学校では74%と、校種による特徴が伺われる。

また、高等学校では「希にしている」が24%と高く、生徒の自己管理能力を期待していることが伺える。

図4の昼食時の観察は、給食指導の時間が位置づけられている小・中学校とそうでない高等学校では、大きな相違があって当然である。

しかし、食欲や食事の態度の観察が、児童生徒の心身の健康状態や日常生活の把握につながることから、高校生に対しても十分に配慮する必要がある。

図5の子ども一人ひとりの健康状態の把握は、健康診断票や健康カードなどから理解されるのが普通であるが、「希にしている」「していない」を合わせると約8%から約25%と低いことから健康状態の把握については、更に留意する必要がある。